住宅改修が必要な理由書（その２）

書き方

＜その１の「総合的状況」を踏まえて、①改善しようとしている生活動作　②具体的な困難な状況　③改修目的と改修の方針　④改修項目を具体的に記入してください。＞

	①改善しようとしている生活動作	②　①の具体的な困難な状況（・・・なので・・で困っている）を記入して下さい	③改修目的・期待効果をチェックした上で、改修の方針（・・・することで・・・が改善できる）を記入して下さい		④改修項目（改修箇所）
排泄	□トイレまでの移動 □トイレ出入口の出入り（扉の開閉含む） □便座からの立ち座り（移乗を含む） □衣服の着脱 □排泄時の姿勢保持 □後始末 □その他（　　）	●生活動作で困っていること、問　題点について、その状況や介護の現状を具体的に記述する。 （例） ★「本当は〇〇〇したいのだが、実際には〇〇〇しかできない」というように、具体的に記述する。 ★腰かける・座位の保持・立ち上がる・歩く・車椅子の自走・車椅子の介助による移動・段差をまたぐ・段差昇降・扉の開閉等、動作レベルで、どの部分が、どのように困難であるのかを具体的に記述する。 ★事前に全ての動作について確認を行っていると思うが、記述は改善しようとする活動の記述のみでよい。 ★生活のどこの場面・どの動作が、利用者及び介助者にとって困難であるのか、動作の流れに沿って、一つずつ見極め、改修につなげるように	□できなかったことをできるようにする □転倒等の防止、安全の確保 □動作の容易性の確保 □利用者の精神的負担や不安の軽減 □介護者の負担の軽減 □その他（　　）	●各動作の困難事項を改善するために、どのような改修を行うのか、その方針を記述する。 （例） ★改善方法は、「掴まれるところを作る」「つまづかない工夫」「立ち上がりの際の支えの確保」という表記でもよい。 ★段差解消は、「敷居を撤去して平らにする」「嵩上げ」「敷台設置」「スロープ設置」などのように具体的に。 ★一つの改修項目で、複数の目的が達成される場合は、まとめて記載してもよい。 ★手すりの設置位置や、段差の高さ、拡幅したい入口の幅等、可能な限り具体的な数値を記載する。	□手すりの設置 （　　） （　　） （　　） （　　） （　　） （　　） （　　） （　　） （　　） □段差の解消 （　　） （　　） （　　） （　　） （　　） （　　） □引き戸等への扉の取替え （　　） （　　） （　　） （　　） （　　） □便器の取替え （　　） （　　） （　　） （　　） □滑り防止等のための床材の変更 （　　） （　　） （　　） （　　） □その他 （改修に伴う付帯工事を記入　） （　　） （　　） （　　）
入浴	□浴槽までの移動 □衣服の着脱 □浴室出入口の出入（扉の開閉含む） □浴室内での移動（立ち座りを含む） □室内浴槽の出入（立ち座りを含む） □洗い場での姿勢保持（洗体・洗髪含む） □浴槽内での姿勢保持 □その他（　　）		□できなかったことをできるようにする □転倒等の防止、安全の確保 □動作の容易性の確保 □利用者の精神的負担や不安の軽減 □介護者の負担の軽減 □その他（　　）		
外出	□出入口までの屋内移動 □上がりかまちの昇降 □車いす等、装具の着脱 □履物の着脱 □出入口の出入（扉の開閉含む） □出入口から敷地外までの屋外移動 □その他（　　）		□できなかったことをできるようにする □転倒等の防止、安全の確保 □動作の容易性の確保 □利用者の精神的負担や不安の軽減 □介護者の負担の軽減 □その他（　　）		
その他の活動	（その他の例） 調理：台所までの移動 洗濯：洗濯物干し場までの移動 寝起き：寝室までの移動 寝室からトイレや居室への移動等		□できなかったことをできるようにする □転倒等の防止、安全の確保 □動作の容易性の確保 □利用者の精神的負担や不安の軽減 □介護者の負担の軽減 □その他（　　）		

現状の問題点を踏まえた上で、改修目的の当てはまる項目にチェックする。

該当する改修項目にチェックを入れ、改修内容を記載する。記載された改修内容と、提出された見積や図面に相違が無いよう注意する。
理由書に記載のない改修は認められない。